

令和 3 年度 百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議 事業計画（案）

I 保存活用会議運営に係る総合調整【予算額 1,751 千円】

同会議を開催し、「資産等保存管理事業」や「来訪者対策事業」の取組方針、予算・等を審議・決定する。

また、大阪府及び地元 3 市の世界遺産、文化財、都市計画等の関係部署の職員からなる「資産専門部会」、「緩衝地帯専門部会」、「来訪者対策専門部会」の 3 つの専門部会を開催し、今後の百舌鳥・古市古墳群の保存管理の具体的な対応等について協議を行う。

II 資産等保存管理事業【予算額 20,911 千円】

（うち、8,470 千円は前年度からの繰越）

世界遺産一覧表記載推薦書の付属資料としてユネスコに提出した「包括的保存管理計画」や、第 43 回世界遺産委員会における登録決議文の「追加的勧告」で求められた内容をふまえ、百舌鳥・古市古墳群の保存管理を適切に行う。

1 国際専門家会合の開催（前年度から繰越となった事業）*

世界遺産委員会登録決議文の「追加的勧告」に、資産の整備にかかる指摘があることから、イコモスの委員等国内外の専門家の協力を得て、世界遺産としての真実性の観点を考慮した整備方針の策定に向けた検討を行う。

なお、実施にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実施手法（対面又はリモート）や詳細な時期については、年度の早期に決定する。

*) 昨年度の実施を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、令和 3 年度に実施するもの。

2 H I A（遺産影響評価）*に関する事業の実施

「追加的勧告」で示された H I A の具体的な仕組みを構築するため、ユネスコやイコモスとの意見交換や報告に必要な文書作成・翻訳等を行う。

*) H I A（遺産影響評価）：世界遺産として認められた価値や資産の特性が、地域の開発計画等によって受ける影響を評価すること。

3 モニタリングの実施

資産や緩衝地帯等の保存管理状況、来訪者への対応等についてモニタリング（経過観察）等により評価を行う（墳丘の構造的安定性の評価、古墳や周辺環境の写真による定点観測、来訪者数の把握等）。

Ⅲ 来訪者対策・魅力発信事業【予算額 13,719 千円】

新型コロナウイルスの感染状況による影響等を踏まえながら、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の価値や魅力を国内外に向けて発信する。

1 高精細映像の作成

百舌鳥・古市古墳群のさらなる認知度向上と来訪者増加に向け、古墳群の大きさや美しさを伝える高精細なPR映像を作成し、SNS等を通じて発信する。

2 ホームページの運営

百舌鳥・古市古墳群の価値や魅力を多くの方々に知っていただくため、親しみやすく、わかりやすいホームページの運営に取り組む。

また、近年ニーズが増加している子ども向けの内容を充実する。

3 PR ツールの作成

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産としての価値や魅力を伝えるPRツールの作成を行う。

4 民間等連携事業・世界遺産学習会等の開催

民間企業、大学等と連携・協力し、百舌鳥・古市古墳群の情報発信事業を実施する。また、府内市町村や学校と連携し、百舌鳥・古市古墳群や世界遺産に関する理解を深めていただくための学習会を開催する。